



鳴鹿小学校

校長室だより

第19号 令和6年3月14日(木)



今年度最後の読み聞かせ

本校のスクールプランに掲げている「読書活動の充実」の一環である「読み聞かせ」は子どもたちが楽しみにしている活動の一つです。3月5日(火)に、今年度最後の「読み聞かせ」がありました。

最後の「読み聞かせ」とあって、子どもたちも集中して話に聞き入っていました。



1年生

「999ひきのきょうだい」

「そらまめくんのまいにちはたからもの」



2年生

「あめだま」



3年生

「もうちょっともうちょっと」

「あめふりのおおさわぎ」

「カエルのおでかけ」



4年生

「メンドリと赤いてぶくろ」



5年生

「たかこ」

「なんとニャンコうんこ4こ！」



6年生

「二番目の悪者」

読み聞かせだけでなく、登下校の見守り、図書室整備、マラソン大会の道路での見守り、低学年の校外学習の付き添い、高学年の家庭科実習のお手伝い、米づくりのお手伝い、卒業証書の名前書きなど、保護者、地域の皆さまには、本校の教育活動に大きな援助をいただきました。おかげで、子どもたちに安心・安全で楽しい体験、学習活動を経験させることができました。

「鳴鹿の子どもは鳴鹿の宝」という、この鳴鹿地区に昔から根付いている地域の思いをひしひしと感じる1年でした。

本当にありがとうございました。そして来年度もよろしくお願いいたします。

坂井市小中学生俳句コンクール

(秀作)

なつ休みぞうのせからおちそうだ

泰知

(丸岡文化財団賞)

夏休みちぎってちぎってひまわりの絵

彩乃

3月10日(日)に、坂井市小中学生俳句コンクールの表彰式がありました。令和3年度から始まったコンクールで、今回が3回目となります。

選者は、テレビ番組「プレバト」でお馴染みの夏井いつきさんです。本校からは2年生の藺田泰知さんと石松彩乃さんの作品が選ばれました。

表彰式の中で、夏井さんが、「俳句の基本は定点観測だ」と話しておられました。同じところを毎日見る。そうすると季節・時の流れとともにいろいろな変化が起きてくる。その何気ない変化を文字に表す。それが俳句の基本だとのことでした。

また、いろいろなことに興味をもつことも大事だそうです。興味をもって、いろいろな物を見る。すると新たな発見があったり、心の中に疑問が浮かんだりする。それを深

く考えるようになる。そういう思いや考えを文字に表す。

いずれにしても、「見る」ということが大切なようです。見ることで、感じる、考えるようになり感性が磨かれるということでしょうか。学校でも、様々な体験を通して、見る力を育てていきたいと思えます。